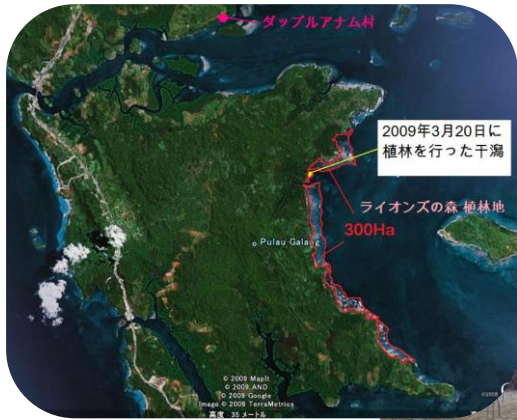




特定非営利活動法人

ライオンズの森プロジェクト活動報告書

2011年6月



ライオンズの森プロジェクトは、インドネシア共和国リアウ諸島州バタム市ガラン島ラメイ岬の干潟300haを対象に計画的に植林して、マングローブの森にする予定です。

今年で活動4年目となります。2009年に行ったツアーでの植林で、2種類のマングローブを植林しましたが、そのうちのオオバヒルギという種類が適応でき、順調に成長しています。



2009年3月植林ツアーにて植え付け

植林後8カ月 葉ができた

植林後1年4ヶ月 150cmまで成長

植林後1年4カ月の写真ですが、大人の背丈ほどの成長を見せています。このエリアのマングローブには、葉への付着物もあまり見られず、今後の成長が期待できます。干潟には、多様な生物が発見できるようになりました。

ライオンズクラブ国際財団(LCIF)の支援



ライオンズの森 植林地の様子

2010年6月に、インドネシア共和国のバタムホストライオンズクラブを共同事業者として、LCIF(ライオンズクラブ国際財団)から10,000ドルの援助金が交付されました。

その支援のおかげで、植林地の地元であるダップルアナム、ダップルティガの村長達の協力も得て20,000本のマングローブを植林することができました。現在、活着率も80～90%と高く、葉の色つやも良く、順調に成長しています。



共同事業者のバタムホストライオンズクラブのOennyさん(真ん中)ら現地視察の様様

植林地に LCIF の事業実施を示す看板も設置できました。共同事業者のバタムホストライオンズクラブのOennyさん達が、看板確認のため現場視察を行いました。

植林したマングローブは、植えっぱなしというわけにはいきません。植林したての小さなマングローブには、波などにより泥などの付着物がつくので、観察や維持・管理が必要です。

植えっぱなしではなく、マングローブの森となるように育ててこそCO₂削減へとつながります。地元の村の村長をはじめ村人たちやバタム島のライオンズクラブメンバーのさらなる協力のおかげもあり、植林も進み、大切な維持管理も継続できています。

インドネシア国立シダルジョ水産専門学校と協同事業

ライオンズの森プロジェクトでは、インドネシア海洋水産省直轄の海洋水産専門学校と協同で、エビ養殖池の再生事業を行っています。

2009年8月8日、スラバヤにあるシダルジョ水産専門学校の卒業式で、協同事業の覚書の調印式を行い、2009年12月からこの覚書に基づき、シダルジョ水産専門学校の職員と周辺住民によって植林が開始され、この事業も3年目を迎えました。



海洋水産学校の卒業式に参加

覚書の調印式の様子

学生と共に植林

インドネシアを中心に東南アジアの国々では、エビ養殖池の開発のために広大なマングローブ林が伐採され、大量の飼料や薬剤が使用されて、土壌は汚染され、放置されるといった悪循環を繰り返しています。しかし、本来、マングローブは、水質を浄化し土壌を豊かにする「生命のゆりかご」と言われている植物で、エビの成長には最適なのです。

私共の事業では、マングローブが持つ水質浄化の機能をうまく利用して、エビや魚の養殖池との共存を目指し、自然循環型の養殖スタイルを協同開発しています。この事業の成功は、同じような汚染された多くの土地や問題を抱えている政府関連、漁業関連、又他の国々を救う手立てとなりうるため、各界から多くの期待が寄せられています。

本年度は、(社)国土緑化推進機構の緑の募金の平成22年度(H22/9~H23/8)助成金の支援もあり、植林の成果をあげることができました。



著しい成長をみせるマングローブ

緑の募金による事業実施を示す看板

土手の造成作業

2010年2月に植林したマングローブに支柱根がたくさん出てきています。干潟に植林したマングローブに比べ、スラバヤの整備された養殖池のマングローブは、かなり成長が早く安定しています。

実習池で試みられているエビ養殖で、一ヶ月半の間にエビ養殖が再開できるようになりました。植林前は全く養殖できなかったことと比較すると、かなりの成果といえます。エビは、出荷できるようになるには4ヶ月間必要です。今後も植林はもちろんのこと、池の整備、土手の修復、下草刈りなど、養殖池の環境再生を目指しての作業が必要です。

インドネシアライオンズクラブの協力

4/23 インドネシア共和国バタム市の3つのライオンズクラブと地元の有志の方、40 余名がアースディの一環としてライオンズの森に 2000 本のマングローブを植林しました。地球に良いことをしようという目的で、ライオンズの森の活動を自主的に応援していただきました。毎年の交流のおかげで絆も深まり、バタム島のライオンズクラブの協力も年々増えてきています。



こうしたマングローブの植林活動の縁がさらなる友好の気持ちを深めました。バタム島を中心とするライオンズクラブが、今回の東日本大震災に、まるで自分の事のように胸を痛め、義援金として福岡博多東ライオンズクラブ経由としたい旨のお話があり、現地通貨で 6,100 万ルピアをいただきました。（その義援金は、西日本新聞民生事業団を通して日本赤十字社に送りました。）

ただイベントで植林をして、そのまま放置するのではなく、地元の人々と手を携えて植林を行い、地元の方々も豊かになり、地元の人が、率先して守っていけるマングローブの森を育てていくという礎が確実にできていることを実感しました。

これらの活動の促進については、活動を支えてくださる会員やライオンズクラブの支援の賜物です。これからも地球温暖化防止、エビ養殖池再生、地域活性化となるように、マングローブ植林活動を続けてまいりますので、応援をよろしく願いいたします。HPも活動報告など載せておりますので、ぜひご覧ください。



特定非営利活動法人ライオンズの森プロジェクト

〒810-0001

福岡市中央区天神 4-1-11 天神 YLビル9階

TEL : 092-734-7751 FAX : 092-734-7720

E-Mail: info@lions-mori.net HP : <http://www.lions-mori.net>

担当：大塚 晃世

※福岡県のHPの中の福岡県NPOの法人検索で事業報告をご確認いただけます。
<http://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/groups/profile/1760> をご参照ください。